

四街道市障害者就労支援センターサンワークでは布おむつのクリーニングを行っています！

四街道市障害者就労支援センターサンワークは、身体に障害があっても働きたくても自信がなかったり、一般企業で働くことが困難な人、将来就労を希望する人が作業を通じて就労に向けての力を蓄えさせ、自立を促すことを目的として行っている千葉県唯一の市直営の施設です。今は環境を重視する時代です。

サンワークでは、紙おむつではなく、昭和58年の開所以来、一貫して布おむつのクリーニングを障害のある方々への就労支援事業として採用してきました。「使い捨てより再使用 布おむつを見直しませんか」という環境保護と、障害のある人への就労支援のふたつの視点から、取材を依頼いたします。

〈取材依頼事項〉

- サンワークが源の確保やCO2の排出削減を、障害のある方々への就労支援事業として、クリーニング事業を29年間行ってきたこと。
- サンワークは「使い捨てより再使用 布おむつを見直しませんか」という環境保護と、障害のある人への就労支援に取り組んでいること。

※資料（1～4）を添付いたします。

お問い合わせ先
四街道市福祉サービス部
障害者支援課
☎ 043-421-6122

四街道市障害者就労支援センター サンワークでは、身体に障害があっても働きたくても自信がなかったり、一般企業で働くことが困難な人、将来就労を希望する人が作業を通じて就労に向けての力を蓄えさせ、自立を促すことを目的として行っている千葉県唯一の市直営の施設です。四街道市では障害者の就労支援を積極的に行っています。当施設では、クリーニング科、園芸科、軽作業科を行っています。

クリーニング科において、布おむつのクリーニングとリースをする事業を行っていますが、現在リース先の老人ホームなどの施設において、布おむつから、少しずつ紙おむつへの使用に切り替わってくるところが見受けられ、5年前と比較しますと現在4割以上も注文が減少しています。

布おむつに比べ紙おむつのほうが使い勝手もよく介護する側の負担も少なく済むというものですが、一方で、注文が減少する分、障害者の方々への工賃の引き下げも検討しなければならず、新規開設の施設を含め、各所の施設に布おむつの使用を増やしてもらう旨のお願いを精力的に行っているところです。

今は環境を重視する時代だと深く認識しています。サンワークでは、紙おむつではなく、昭和58年の開所以来、一貫して布おむつのクリーニングを障がいがあるの方々への就労支援事業として採用してきました。紙資源の確保やCO2の排出削減を、障がいがあるの方々への就労支援事業として、29年間行ってきたこととなります。

「使い捨てより再使用 布おむつを見直しませんか」という環境保護と障害のある人への就労支援のふたつの視点から、貴新聞で取りあげていただけないでしょうか。

よろしく申し上げます。

平成25年7月25日

四街道市福祉サービス部障害者支援課

電話043-421-6122

四街道市障害者就労支援センター サンワーク

電話043-421-0221

別添

紙おむつ

便利さに流されて使い捨てを当たり前にして使っている紙おむつの年間消費量は約 37 億枚。これには 1000 万本もの木が必要です。毎年甲子園球場の 1 万倍の森林が無くなることとなります。広大な森林を失った地域では洪水が発生し、村が全滅するなどの被害も出ています。布おむつから紙おむつへと移行し、私たちは便利な生活を手に入れましたが、その一方で環境の大破壊を引き起こしているのも事実です。地球温暖化白書より

老人ホーム等の新規開設施設を含め、既設の公立病院等各所の施設では、紙おむつではなく、布おむつの使用を積極的に進めていくべきではないでしょうか。そのために、布おむつの使用する病院や特別養護老人ホーム等には「環境を重視している事業所」として国が認定し、介護報酬の引き上げなど積極的な支援が必要だと考えます。環境対策を福祉施策からも取り組むべきです。

G8 北海道洞爺湖サミット首脳宣言より

(骨子)

環境・気候変動

2. 環境

違法伐採対策等を含む森林減少対策、生物多様性の保全、3R、持続可能な開発のための教育(ESD)にも取り組む。



地球温暖化白書

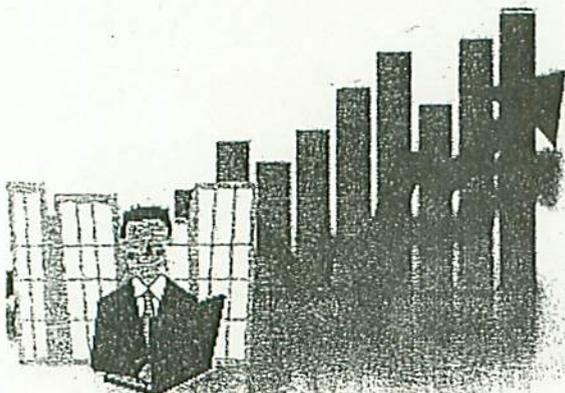
Global warming white paper

紙おむつ

紙おむつの年間消費量は約 37 億枚、これには約 1,000 万本もの木が必要です。毎年、甲子園球場の約 1 万倍の森林がなくなる…といえわかりやすいでしょう。

広大な森林を失った地域では洪水が発生し、村が全滅するなどの被害も出ています。布おむつから紙おむつへと移行し、私たちは便利な生活を手に入れました。しかし、その一方で環境を破壊しているのも事実です。

高齢化で変わる需要 大人用おむつの需要、乳児用を上回る



おむつなどの衛生用品を扱うメーカーの加盟する日本衛生材料連合会によると、大人用おむつは、数年後に乳児用を上回る需要があるという。少子高齢化が最大の要因で、平成 23 年のおむつの生産数量は大人用が 28 万 7688 万トン、乳幼児用は 29 万 6203 万トン。

今後も高齢化が進むことから、数年後には同枚数になり、その後、大人用が乳幼児用を超えると予測されている。

また、高齢者人口の増加にともない、パンツ型のおむつとともに、軽度失禁用品もここ数年で約 15%の生産量増と伸びてきている。

一方で、子供の数が減っているにもかかわらず、乳幼児用おむつは微減にとどまっている。過去と比較して、現在では成長に合わせて使用を続けるケースが多く、使用期間が平均 36 ヶ月以上、3 歳以上まで延びているためだ。

